

令和4年度第2回山県市総合計画審議会及び 第17回山県市まち・ひと・しごと創生会議合同会議 議事録（要点筆記）

1. 開催概要

会議名	令和4年度第2回山県市総合計画審議会及び 第17回山県市まち・ひと・しごと創生会議合同会議
開催日時	令和5年2月9日（木）午前10時から
会場	山県市役所 3階 大会議室
出席者	<p>総合計画審議会委員 （敬称略）</p> <p>会 長 竹内 治彦 岐阜協立大学 学長 副会長 丹羽 英之 市社会福祉協議会 会長 委 員 福井 康雄 市自治会連合会 会長 宇野 睦 市商工会 会長 川田八重子 山県市教育委員 寺町 祥江 議会代表（総務産業建設委員） 古川 雅一 議会代表（厚生文教委員）</p> <p>まち・ひと・しごと創生会議委員</p> <p>会 長 竹内 治彦 岐阜協立大学 学長 副会長 黒見 敏丈 岐阜女子大学 教授 委 員 福井 康雄 市自治会連合会 会長 宇野 睦 市商工会 会長 後藤 眞司 ぎふ農協 岐阜北グループ統括支店長 早川 徹 株式会社 水生活製作所 代表取締役会長 大村 統子 市小中学校校長会 会長 浅野 昌喜 株式会社 十六銀行 高富支店長 箕浦 智之 株式会社 大垣共立銀行 高富支店長 森 将志 岐阜信用金庫 高富支店長 鈴村 和喜 岐阜公共職業安定所 雇用開発部長 木村 麻理 社会保険労務士 稲葉 亮 岐阜新聞社 本巣支局長 大高 千奈 中日新聞社岐阜支社 報道部記者 矢島 昌夫 岐北厚生病院 事務局長 丹羽 英之 市社会福祉協議会 会長 相宮 一夫 岐阜乗合自動車（株）営業管理部取締役</p>

	<p>今瀬義幸 元岐阜県職員 久保田裕司 副市長</p> <p>事務局</p> <p>丹羽竜之 企画財政課長 武藤達也 企画財政課 主幹 小栗知子 企画財政課 係長 橋枝伸介 企画財政課 係長 篠田将史 企画財政課 主任</p>
傍聴人数	0人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画のあり方・基礎調査結果報告 (2) 策定スケジュールについて 4. その他 5. 閉会
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 席次表 2. 山県市総合計画審議会委員名簿 3. 山県市まち・ひと・しごと創生会議委員名簿 4. 【資料1】ブログデータ解析結果報告書 5. 【資料2】山県市まちづくりアンケート調査（市民・中学生）概要版 6. 【資料3】山県市第3次総計及び第3期総合戦略策定のための各課ヒアリング結果報告書 7. 【資料4】第3次山県市総合計画及び山県市デジタル田園都市国家構想総合戦略 計画のあり方・スケジュール

2. 議事録

1. 開会

事務局

異動による委員の委嘱（新任委員の紹介）及び紹介

2. 会長あいさつ

会長

皆さまおはようございます。本日の会議ですけれども、成立要件について申し上げますと、出席委員、総合計画審議会委員が7名、まち・ひと・しごと創生会議委員が19名ということで、全員の方にご出席いただいております、会議の成立要件を満たしていますので、スタートしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

審議事項、お手元の次第にあります2項目でございますが、審議事項といいますが、どちらかというと報告的な内容でございます。事務局から計画の在り方、基礎調査結果報告の資料1から4に基づいて説明を受けたあと、山県市の課題の説明を受け、意見交換に移りたいと思っております。委員の皆さまから、それぞれのお立場から意見や提言をいただきたいと思っておりますので、今日何か決めないといけないということでもありませんので、ほんとに忌憚のない意見をちょうだいできればと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは審議事項1、計画の在り方、基礎調査結果報告について事務局からご説明お願いいたします。

3. 審議事項

(1) 計画のあり方・基礎調査結果報告 ー課題整理・意見交換ー

事務局

計画のあり方・基礎調査結果報告について説明（資料1～4）

会長

ありがとうございました。なかなか資料が多くて大変だと思っておりますが、今の資料のご説明に関するところなど、どのようなことでもよろしいかと思っておりますので、ご発言のほうお願いいたします。

内容の構成と関係なく、資料4の2ページ目、ウクライナ戦争という言葉がありますが、ウクライナ戦争とか私絶対言わないようにして。ロシアによるウクライナ侵攻と。戦争してるのはウクライナではなくてロシア。そこを明確にしたいなというところで、ご賛成いただきましたら修正いただけたらと思います。何かご発言ないでしょうか。

委員

今回、資料4でこれからの総合戦略の在り方やスケジュールを示していただいたんですけども、今までより非常にいいなと思ったところが2ページですね。官民協働で持続的な自治体運営を図ることが重要。この計画がまず職員さんのバイブルとなる計画というところと、住民にも分かりやすい計画であり、本当に計画のあるべき姿みたいなのを初めて見たような気がいたしまして、このとおりやっていたらと非常にいいと思います。ただ他市とかに聞きますと、職員さんが総合計画やまち・ひと・しごとも含めて、そういう計画があるから私たちは事業ができるという言葉をよく耳にすることがあります。ですので、そういったことが山県市の職員さんに対しても見えてくるといいのかなというのが一つあります。

もう一つ、質問になりますが、市民のアンケート資料2の13ページになります。第1位の若者の雇用の場づくりや、若者と女性への再就職とかの支援が割と高い位置にあがってきていますが、どのような細かい具体的施策を求めているのかなというのは、個人的にはすごく知りたいところではあります。というのも、多分若者の雇用の場づくりになると意外と産業は限られてはいるものの、企業においては非常に人材不足が叫ばれています。雇用の場はあるはずなのに、若者にとってはなかなか雇用がないように思えるのかどうかということと、あと女性への再就職も、実は今育休復帰者が非常に多いです。山県市は、女性のM字カーブもMが平らになるぐらいすぐ再就職していくという中で、それでもおそらく属性が50代、60代の女性がすごく多いので、そのあたりの人が求めているのか、もしくは30代、40代の人求めているのか、そのあたりもクロス集計などで最終的に見せていただけるような形があるといいかなと思っているんですけども、そのようなことを深掘りしていくようなことは今後されているのかなという質問になります。

株式会社ぎょうせい

雇用の場に関しては、まずそれなりに雇用の場はあるはずなのという話なんですけども、おそらくマッチングの問題になると思います。就職したい人はいるけれども、好むような職種がないのかもしれない。とはいえ、好むような職種が山県市で残ってる可能性もありますので、そのあたりのマッチングというものを何か施策として実施していく可能性をこれから示唆できるのかなと思います。あとM字カーブのお話いただきましたけれども、クロス集計のデータ自体は出せますので、改めてクロス集計表という形でご提示させていただきたいと思っております。以上になります。

会長

ほかにどうでしょうか。よろしいですか。どうぞ。

委員

今のぎょうせいという会社、初めてお目にかかるんですけど、今回の総合計画等にどのような絡み方をされるのかということと、どういう会社なのかということ

をお聞きしたい。

事務局

総合計画は市の一番最上位の計画になりますので、アンケート項目や基本的な情報収集であるとか専門的知識をお持ちの会社に支援いただき、よりよい計画策定を行っていくために募集をかけまして、何社か提案いただいた中から選定された事業者が株式会社ぎょうせいになります。会社に関しましては名前のおおりのぎょうせいと入っていますが、昔から例えば法令関係であるとか、こういう地方公共団体に深く関わりのあるお仕事、昔から条例関係の改正に携わる会社になります。

株式会社ぎょうせい

弊社がどういう会社かということで説明を申しますと、先ほどご説明いただきましたとおりの、法令や例規システムなどに携わる会社になります。またインターネット上で見えるデータベースなど、全国でかなり大規模に展開させていただいております。それに加えて、計画策定支援業務というの大きな業務としてやらせていただいております。例えば今回の総合計画業務ですと、100、200相当の数を社内でも担当させていただいております、それなりに情報が蓄積されているということで、その知見を山県市様でも使わせていただきたいと考えております。

加えて最近出てくるようなSDGsですとかDX絡みになりますが、DXですと割と専門性が要求されたりする中で、役所の中で専門的な職員が動員できなかったりします。そういう中で、多くの自治体でDX絡みの計画策定を担当させていただいておりますので法令を踏まえながらそれらをやっていくところが弊社の強みになります。そういったところを活用しながら計画策定のご支援をさせていただきたいと考えております。以上になります。

委員

ありがとうございます。今までの計画の支援との継続性というようなものがどのように担当されていくのかなということを思った次第です。県内の市町村でも実績がおりになる会社ということなんです。山県市さんのほうで選択をされた基準を知りたいなと思ったんです。

事務局

今までの計画との継続性というのは当然ながらつなげていく計画であり、例えば前回のアンケートであるとか、今回どう変わったかということも踏まえながら、前回の掲げた施策について評価して次回の計画につなげるという形になりますので、前回支援していただいた会社と同じ会社でなくても継続して策定していきます。今回特に重視したのは、先ほど委員さんのほうからもお話がありましたが、

計画を策定するだけで終了してしまうところがあるんですけども、それが職員にとっても、市民にとってもというところを重視して、計画の様式自体も誰が見ても見やすいところを重視しまして、そういう提案をいただいた株式会社ぎょうせいのほうに今回はお願いしたということであります。

会長

この会議としてまだ始まる場所ですので、それぞれのお立場で山口市運営の方向性について、市民の皆さんのご希望として、こういう市であってほしいのかなということについての非常に漠然とした、そういったお声をちょうだいする機会がありますので、あまり具体的にここがっていうんじゃなくて、山口市ってこういうのあってほしいよねっていうところで、忌憚のないご意見をちょうだいできればなというふうに感じた場所ですので、それぞれのお立場からでも何かございましたらおっしゃっていただけると。一つ、そういうので慣れた立場からすると、すごい注目したのが資料4の3ページで、この言葉初めて私知りました。FXという言葉で。FXって株の話しか思いつかないんですけども、維持管理。公共施設の維持管理について、ここで挙げてらっしゃいます。これ、なかなかすごくて。自治体で公共施設の維持管理をこういう会議の場で触れるという自治体はほとんどないと思います。これは市民が入る会議にはなかなか出さなくて。というのは結局、これからは削減の話しか出てこなくて、これやめますとかそういう話をするとか叱られるわけですね。だから行政の中で粛々と決まってくようなところがあるんですけども、これもこの中にそういう課題がありますよと挙げてらっしゃって。山口市さんの場合は合併されてますから重複してる施設も必ずあるというふうに思います。これもやっぱり真剣に考えていかなきゃいけないところがあるんだろうなと思いつつ、考慮すべき社会の動向としてFXという言葉で公共施設の維持管理について取り上げられているところも注目したいところです。どうぞ。

委員

公共施設の在り方というのは、水面下ではすごい全国的に各自治体が抱えてる問題でして、橋をどうするのか道路をどうするのか、今のまま更新なんかできないよ、人口減少社会になってというのは、みんな共通なんですけどなかなか、会長がおっしゃられたように、触れられないテーマでして私は触れるべきだと思う。この会議の前に行った本部委員会では入れてなかったんで、入れてもらうようお願いしたんですけど、FXって説明がないとまったく分からなくて。勝手に自分がつくり出したファシリティ・トランスフォーメーションのことです。市長の政治理念として対話と共感ということ言葉をしまして、風通しのいい、皆さんが思いのまま発言できるものを求めようというのがありますので、チャレンジ精神でこういうことも触れてなかったんで入れてほしいということで、FXに関しては入ってます。

あと委員さんがおっしゃられたぎょうせいさん。そうか、一般の人はそうなんやなと思ったんですけど、だいたいぎょうせいという名前のおり、行政関係ですと一番メジャーな会社です。出版物、行政関係の出版物でもほとんどですし、8割程

の自治体はぎょうせいさんを頼ってるというのが現実で、とてもメジャーな会社です。前の計画の時、違う会社でしたけどもコンサルに入ってもらったんですけど、過去には合併前の市町村時代にはぎょうせいさんにお世話になったことはあります。担当課長が言いましたように、もちろん継続性が大切ですけど、コンサルタンツ会社に全部丸投げじゃないので、その継続部分については当然、行政職員が関わってくるといことで、業者さんが代わっても色は違ってくる、変えてくるんですけども、行政の質が変わるといことは全くないので、そこはご安心いただけます。

もう一つ、情報提供として、今回初めてビッグデータのことを触れさせてもらったものですから補足的にお話ししますと、ビッグデータが注目されてから久しいんですけども、今の時代でビッグデータを活用しない手はないなといことで、会長はお詳しいかもしれませんが、Yahoo!の検索エンジン、検索機能を使ったものがあります。実はトライアルで、民間企業だと1週間、自治体の場合は2週間トライアルでできるといことで、申し込みをしまして職員が20人弱ですけども、実際2週間使ってみたんですけど、これと一緒にです。ビッグデータといながら、膨大なビッグデータを持ちながら山県市に関わるデータは極めて少ない。有意性が見いだせないといことでトライアルをやめました。

ただ全国的なトレンドで、例えば水栓バルブに関して、シャワーヘッドに関してといと、全国のトレンドは出るんですけど、ローカルなトレンドが出ないので、ちょっと今お金を払ってまで活用するレベルじゃないなといことでちょっと見送りましたが、今後は活用していかなければならないのかなといふうには思っています。

もう一点だけ資料2の12ページ、13ページの話で、根幹的な話で会長さんからお話ありましたけれども、12ページで人口減少対策が26.9%、18歳以上の場合課題ですよっておっしゃった。これ多分全国どこの自治体でもトップクラスの課題が多いです。私は人口減少対策、なんで人口減少対策が必要なのかといところを深掘りするのが重要だなと思ってきました。例えば、それは単純に税収が減るからとかいろんなことがある。私は個人的には引き込み時の衰退といのを一番懸念しているんですけど、これも市民の人の捉えようによっては、何が問題なのかといのは深掘りしなければならないテーマかなと思っています。下から13番で若者の雇用の場づくりといのがあって。単純に、こうだから基準にすればいいと短絡的になりがちなんですけど、そうではなくて、先ほど話が出てますように、雇用の場はあるのに若者の雇用の場ではない。製造業といのは今の若者の目指す雇用の場じゃないし、女性の活躍の場じゃないとい先入観みたいなのがある。これを働く場所があるとか働いてもらえるといことを目指したいなといことで、早川社長のお力添えをいただいて、早々と市内に大事なエクセレント企業をとっていただいたように、今さくらカンパニーでも働ける魅力ある場所であるといのを宣伝してますので、また企業さんともども市民の方に訴えてかなきゃならないなといのは感じているところです。何を課題であってどう目指していくかといのは考え、捉え方は色々です。今回ご出席の様々なお立場からご助言、ご意見いただければ、率直に計画に反映させていきたいと思っておりますので、よろし

くお願いします。

会長

ありがとうございます。そういうことで、総合計画にこういう観点で臨んでいただきたいか、そういうことでいいかと思います。忌憚のないご意見、どんなことでもかまいませんので、おっしゃっていただければと思います。

委員

この資料3の結果概要、ヒアリング結果の概要とここがポイントというのがあるんですけど、これヒアリングというのはどなたが各課から聞いたのかということ、それからここがポイントというのがあるんですけど、ここがポイントというのは各課が書いたことなんですか、それともヒアリングした方が、そちらの課で書かれたことなのか、そこのところをお聞きしたいということと、もう一つは、資料4の10ページに作業工程のスケジュールがあったり、それからその前に、8ページに審議会等の運営というところで、策定委員会とか庁内ワーキングとかいろいろあるんですけども、計画を策定する市役所内の体制として、どういう体制で計画をつくっていかれるのかなど。例えば各課でそれぞれ課題と問題点を整理して施策を考える。そうすると各課の所管というのはいろいろあって行政の谷間が必ず出てくる。そういう部分っていうのはどなたが調整して全体をつくり上げていくのか。こういうあたりはどういうふうに行っているのかをお聞きしたいです。

事務局

各課ヒアリングにつきましては、こちらが委託しているぎょうせいさんと事務局職員と担当課の主幹を含む職員を対象として各課の事情をお聞きした内容になります。ここがポイントと書いてあるところは、各課からいただいたご意見をまとめた課題の整理になります。資料4の今後のスケジュールのほうのこれからの進め方についてなんですけど、今回は課題の整理を行いまして、課題を皆さんで共有をしていきたいと思っております。次の審議会のほうでは、トップインタビューを終えて基本構想をつくっていきたいと思っております。その次に基本計画ですが各課ヒアリングでいただいた課題をもとに、さらに来年度は各課にもっと詳細なヒアリングを行う予定です。どういう計画をしていけば問題が解決されるのかというところを絞って計画を進めていきます。そういった内容で、来年度は各課のヒアリングを、もうちょっと詳細を聞いたヒアリングを行って基本計画をつくって、また審議会でその内容を諮って行って、最終案にもっていければと思っております。

事務局

補足ですけども、そういった実務担当レベルでの施策などをとりまとめまして、こちらの審議会に当たる前に市長を本部長にしました課長級を含む本部会議を行わせていただいて、その中でも各施策について審議をしていきたいと思ってお

りますので、よろしく願いいたします。

委員

各課からヒアリングして課題と整理、そして今後の計画についていろいろ検討していただくとありましたが、各課のヒアリングをしたときに、各課が自分の所管事務を計画の中に盛り込むんですけれども、ひと言で福祉、高齢者福祉といっても、健康保険いろんなところから始まって生きがづくり、いわゆる生涯学習というのはいろんなところから始まって、特に高齢者に対して生きがづくりとかいろんなことをやってるんですよね。そういうところの各課ばらばらに出てきた課題を誰がトータルで、この市の計画の中へ盛り込んでいくかという、その調整役というか、そういうのはどこが担当するんですか。

委員

どこが調整するかは、実務的には、企画財政課です。最終的に行政のセクションの狭間がでてくるとは思いますを担当課の立場からではなく市全体としての立場から調整します。それでも狭間は出ると思いますが、出ないように私も目を見張って、隙間がないように。国であれば例えば脱炭素でも環境省、一生懸命ですけど、経産省もすごい一生懸命ですよね。総務省も今 DX、DX なんて、それを盾にして省庁、仕事の奪い合いなんですけども、あそこまではいかないにしろ、私のところも今度、来年度、子育て関係でも、もうちょっと連携するように今考えておりますので、またお気付きの点があれば、具体的なことです。ご指摘いただければ改善してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

会長

それでは少し話を変えて、市のほうからも、皆さんから山泉市の課題をどのように考えていらっしゃるか伺ってほしいというふうに言われてますので、どなたでもいいんですが、山泉市の課題として日ごろをお感じのことがありましたら、いかがでしょうか。

委員

今課題ということだったんですけど、どう関わるか分からないんですけど、資料1のブログデータから今回出していただきまして、分母が少ないというなお話だったと思うんですけども、SNSとかではなくてブログにされた理由があればお聞きしたいのと、分母が小さい中で山泉市のことを見てるんですけども、例えばですけど岐阜県内とか他市町村と比べてどんな割合で出てるのかとか、そういったことというのはこういうデータで解析することはできないのでしょうか。

会長

ぎょうせいさんどうぞ。

株式会社ぎょうせい

ご質問ありがとうございます。まずほかの SNS ですと Twitter というのが挙げられると思うんですけども、例えば Twitter ですと文章が短くて、その代わりブログだとかなりボリュームが出てくるという特性があります。ブログですと、数は少ないけれども結構多めに書いてくれるということがありますので、深掘りの分析としてはこれがベストだということで、ブログという手段をとらせていただいております。

あと比較分析ですが、自治体の比較分析ですと、岐阜県の自治体を別個に調べてやるということがあるんですけども、それも不可能ではないと思いますけど、今調べたデータではその比較分析ということではできません。

委員

分かりました。ありがとうございます。山田市が周囲の市町村と比べてどうかというのも見れるといいかなと思いました。もし、先ほど何回かお話に出てきて、資料2の12と13ページですが、12ページで人口減少対策というものが1位にきてて、3位のところに子育て分野と、13ページに子育てしやすいまちになるためということで出されてるんですけど、先ほどもお話があったんですけど、50代60代の方がアンケートに答えられたのが多くて、この人口減少対策というものの意識が高くて、それが子育て分野とは別で回答があるのに、すべてがここなのかというのはちょっと疑問でした。子育て世代からすると、50代60代の方にその意識を持っていただけるというのはすごくありがたいことではあるんですけども、この人口減少対策ということで、12ページのほうに挙げられた回答には、もうちょっと違う部分が寄せられてるのではないかなと感じるんですけども、そのあたりも計画の中に落とし込んでいけるといいかと思うんですが、この部分に対しての何かアンケートの中で意見とか、そういう質問はあったんでしょうか。

株式会社ぎょうせい

最後の12ページの人口減少対策に関する話だと思うんですけども、それに対する回答として、人口に関してだと二つの考え方がございます。自然増というのと、社会増という考え方があります。自然増は産むことによって増えるというもの。今委員がおっしゃってくださったのは社会増のほうで、つまり移住のほうの問題ということだと思いますが、8ページの定住意向に関する質問で、住み続けたい人がどのような理由で住み続けたいのかというのも追加質問を行っておりますので、そこらへんが移住のヒントになってきたりするのかなというところもあります。

あと、総合戦略、デジタル田園都市国家構想総合戦略になりますけれども、人口減少対策に関しても総合的に行ってまいりますので、その中で意見も固まってくるのかなというところでございます。

委員

資料1のブログデータのところでお聞きしたいんですけども、今回出したデータというのは、基本的にはブログの総合記事に関する解析ということでしょうか。閲覧数とかというデータはあるのでしょうか。

株式会社ぎょうせい

閲覧数に関するデータはなかったと思いますが、確認します。申し訳ありません、今お答えできないです。

委員

弊社も今ネット記事に力を入れておりましてPV数っていうんですけど、記事のページをクリックして、読まれた件数を分析していますが、弊社の傾向でいうと事件事故とか不祥事とか、食べ物とか芸能人の話題が割と上位にくるという傾向があります。ここからは提案なんですけれども、今回出たブログデータをどう活用するのかちょっと分からないんですけども、例えば施策に反映するというのであれば、もうちょっと多角的なデータがあるといいのかなと思いました。

会長

私、資料1を拝見して一番思ったのは、総合計画をつかっていこうという、そのところで、人から何を言われてるかを気にするのはあとでいいんだと。これ、人が何言ってるかという話で、まず自分たちがどうしたいか。その時に、そのために人が何言ってるか。例えばもっと賑わいを創出したいという気持ちがあった時に、じゃあどういう観光客が来てるのかなということで、データを調べるならその前だよなというふうに思います。冒頭のあいさつでゲートボールの話をしていただいたんですけど、ちょっと意図してまして、少子化が進んでるわけですけども、別にお子さんの数が減っても高齢者の方が元気な場合は悪くないんです、別に全然いいわけですよ。だからそれは市民の皆さんの選択であって、どんなまちをイメージするのか、お年寄りが元気なまち、こっちのほうが大切だということならばそちらの方向を考えていけばいいということです。早川さんのとこだったら、雇用のところ大変ご苦労されてるかもしれませんが、市民の皆さん全体としては岐阜市に行って働けばいいんだと思ってるかもしれないので、それはもう市民の皆さんの思いがどういうふうにあるのかということからまず出発点であって、そこをどう実現してるのかということでもいろんなデータを活用して、それを実現するという話だと思ってるので、市民の皆さんがどんなまちにしたいのかというのが出発点、お住まいの皆さんの思いが何よりも出発点だと思う。ただ、ちょっとこの会議の場でそれを話すのはちょっと難しいのかなという気はするので、部会であったりワークショップ、もっと小規模でその思いを語れるような、それぞれの団体ごととか、そういうものを積み上げていかれるということが必要なのかなというふうに思ったりいたします。ぜひそれぞれのお立場、考え等あると思いますの

で、その中での発言はまた何回かの会議の中でいただきたいと思いますが、今日はあえて審議をさせていただきませんが、そのうち必ずご発言いただくつもりでありますけれども、やはりこういう場ですとなかなか発言をしにくいかと思っておりますので、そういう形で小さなブロックごとに意見をくみ取るということは、またご検討いただければと思います。

委員

話の中でふと思い出したことがあったんですけれども、市民の話を聞くというのでは今までも計画をつくる際にワークショップをやられてはいらっしゃると思うんですけれども、いつも思っていたのが、そのワークショップをつかさどる課が、この計画だとこの課とか、やはり、さっきセクショナリズムの話がありましたけど、ずいぶん前に、市民協働課というのがこの山田市にはできないというか、なんで市民協働課がないのかという質問を多分こういう会議の場で私させていただいたことがあるんですけれども、その時は副市長が部長、課長だったときに、時期尚早って言うてみえたと思うんです。今もまだそんな感じでお考えであるのか。また市民の意向をくみ取るのに今後どうしていこうと思われてるのかというのをお聞きさせていただきたいと思います。

委員

そのとき時期尚早と言ったのかどうか記憶はないんですけど、自分の理念として、今この立場の考えとしては、市民協働というのはその専門の部や課ではなくて、どこの課も市民協働であるべきだというのが自分のポリシーです。だから例えば農林畜産課だって、まちづくり・企業支援課、企画財政課もどこの課も市民協働の意識を持って、この計画はそういう意味合いでつくろうとしているものです。とはいえ、もうちょっと特化したようなこと、どこに言っているのか分からないということもあったりするので、つくることを否定はしませんけど、来年度組織は考えてませんが、思いとしては各部署が、市民協働係が、それぞれの課の中にあるぐらいの意識を持って取り組んでほしいという思いは持っています。

委員

ただ、その市民協働課というところがあることによって、例えばボトムアップでアイデアを出してくれる。例えばこの資料3の中でもトップダウン、DXなんか割とトップダウンであるところがあるんですが、まちづくりの中でもヒトイキ村構想という、まちづくり・企業支援課が挙げてますが、こういうのはたぶんボトムアップなんです。ボトムアップをやっていた時に、どこで意見を聞いていただいたらいいか分からない。それがすごくいい構想だというふうに市役所的には思っているんだけど、すごく壁とかつまずきが多いというのを実際耳にしているので、市民協働課というのであれば、相談窓口じゃないんですけど、そういうことが相談しやすい環境になるのかなというふうに私は個人的には思っております。

委員

会長さんからも、ほんとはワークショップをつくってもっとフランクな話し合いができるという話もあったんですけど、今回は予定してないのかな。部会とかつくったりは予定してないと思うんですけど、逆にいえばそれぞれの、ここにご出席いただいている委員の皆さん方が、ここだけじゃなくてほかの委員でそれぞれに所属していらっしゃるの、そこで出た意見はここに集約しなければならない。組織としてそれぞれのセクションで、例えば環境市議会でしたら環境に関するテーマがこの会議のほうに上がってくるような意識づくりをしていかなければいけないと反省点はありますけども、そういうふうにしてなんとか吸い上げていきたいなという思いは持っています。

会長

吸い上げるというか、実際に意見を反映するという部分と、それからそういう機関によって考えていただいて、それが一つの考えていただく機会になるということがあると思うので、考えていただいて積極的にいろんな機会を設けていただいたらいいかなというふうには思います。そろそろ次へ移りますけれども、何か意見ございましたらご発言いただければと思います。どのような観点でもかまいません。先ほど市民協働課がないのが課題だというご意見だったということだと思います。そういう課題というところでも、なんかこうしてほしいというようなところでも。よろしいですか。ほぼ話も出てきてますので、続けて策定スケジュールについてご説明お願いいたします。

(2) 策定スケジュールについて

事務局

策定スケジュールについて説明（資料4）。

会長

ただ今のご説明につきましてご質問、ご意見ございますでしょうか。私としては今申し上げたとおりで、審議会の予定でどこかに部屋をとっていただいて分かれて対象グループ、福祉系とか子育て系とかに分かれていただいて、その中で密にご議論いただくような場面を考えていただいたらどうかなということ。可能であれば集まっていたら、市民の方から集まって直接お話を伺う機会を設けたほうがいいかなというふうに思いました。ほかにご意見ございましたら。スケジュールですが時間軸的な考えとしたらこれは変えられない、こういうものだというふうに思いますので、それはそのとおり進めていかなきゃいけないことかと思えます。内容的にはそこに向けたいくつか切り口があるのかなと思います。いかがでしょうか。まだちょっと時間が早いので、ご発言がありましたらお願いします。

4. その他

委員

前回の総合計画の策定の時もこういう会議に参加をさせていただきまして、その時にもちょっと見てたんですけど、今いろんな施策を市がやっていただくのに、やっぱり国や県の補助金をとってきていただいて、それで指示していただける、非常にありがたいことなんですけど、それが終わるとぶつっとその事業が途切れてしまうような感覚が今どうしてもありまして。次の総合計画のところで、まちづくりとか、企業支援課さんのほうでいろいろやっていただいている企業支援もそうです。例えばバスターミナルもそうだし、いろんなものがぽつぽつといいものができてきてると思うので、これをどうつなげて深掘りして次の展開に持っていくか。冒頭に申し上げたのは、がらっと変わってしまうのかなという部分もちょっと感じたものですから。今あるもの、補助金でつなげたもの、つくってきたものをどう深掘りしてつなげてまちづくりをしていくかというところを始点として、ぜひ強く持っていただいて、総合計画、次の計画をつくっていただけるとありがたいなというふうに思っています。

もう一つ、やっぱりいろんな課があり、いろんなことをやらなあかんと思うんですけど、これもやろうあれもやろうというような形になりがちだと思うんですよ。選択集中ってどこかにも書いてありましたけど。この5年間は、例えばこの年はこのことに注力してやるというふうにやっていくほうが身になっていくのかなということも感じていたことで、意見として申し上げさせていただきます。

委員

すいません。ちょっと確認なんですけど、この今回の総合計画第3次は、何年度を初年度として何年までの計画なんでしょうか。そこらへん、ここには書いてないんですけども。

事務局

今年度と来年度で策定をしまして、計画は令和6年から9年までの4年間になります。第3次の前期が令和6年から9年までの4年間で、後期が令和10年から13年までの4年間になります。前期、後期と分かれて合計8年間の第3次計画なんですけど、基本構想については8年間の基本構想をつくって、その下にある基本計画というものは前期と後期4年4年に分かれて策定していきます。

委員

総合計画の期間は基本構想が10年、基本計画が5年5年というところが標準的でした。統一地方選挙がありまして、今年選挙があるんです。そこで新しい市長もしくは現職の市長が続いたとしたら新たな期としてどうするのか、このトップインタビューをやって4年間。また4年後に、仮に市長が代わってもそこでつくり直さなくてもいいように、大きく見直さないほうが、市民の方への行政の継続性、混乱

がないのではないかということで、自分が担当課長だった時に調整しまして、そこに合わせていくというのが本音です。途中でまた任期が変わるとまたややこしくなりますが、そのようなことを踏まえて、4年4年というのは少ない事例ではありますが全国でもありますが、そういう計画になります。

会長

現状について、まさに言われるように、踏まえてやってくという作業も、もちろんやらないといけないと思うんですけど、そのうえで、おそらく今までどおりをそのまま踏襲するというだけでもなくというところで、今日場を設けていただいているのかなと思います。けれども、次のときは現状の到達状況についての確認をさせていただいたほうがいいのかと思います。ほか、何かご発言あれば。よろしいでしょうか。では次回、次々回ぐらいは皆さまひと言ずつ2回に分けてぐらにご発言いただくように進みたいと思いますので、その節はよろしくお願ひしたいと思ひます。では今日の議事については以上とさせていただきますので、あとは事務局で進行をお願ひいたします。

5. 閉会

事務局

本日、ご審議いただきましてありがとうございました。会長はじめ委員の皆さまからいただいたご指導やご助言につきましては今後、総合計画と総合戦略の策定業務にしっかり盛り込みながら進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆さまのご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。本日はありがとうございました。次回の開催予定日ですが、レジュメのほうにも書かせていただきましたが、7月24日の月曜日10時からを予定しております。また間近になりましたら開催通知、資料も添えてお送りさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(11時31分 閉会)